

2022（令和4）年度

3月3日〔○〕

国語

注意

- 1 開始の合図があるまでは、開かないこと。試験時間は、六十分である。
- 2 問題は声を出して読まないこと。
- 3 問題用紙は二十六ページ、、の二題から成っている。
- 4 問題用紙および解答用紙に、落丁、乱丁、汚損あるいは印刷不鮮明の箇所などがあれば、手をあげて監督者に申し出ること。ただし、**内容に関する質問は受けつけない。**
- 5 解答は必ず**鉛筆**を使用し、**解答用紙に記入すること。**
- 6 解答はすべてマーク式の解答欄①②……を丁寧に塗って解答すること。
- 7 訂正箇所は、消しゴムで**完全に消すこと。**
- 8 解答に関係のない符号（？レなど）や文字は記入しないこと。
- 9 解答用紙を折ったり、汚したりしないこと。

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。なお設問の都合上、一部省略したところがある。

「小ささ」が空間的な属性だとすれば、それを時間に置きかえると「幼さ」となる。「かわいい」の前身である「うつくし」は、本来は幼い我が子に対する感情を指すことばであった。

「幼さ」とは未熟の謂いでもあろう。成熟がおそらくこの社会でも

I

に認められる価値だとすれば、本来未熟は反価値のはずである。しかし、「うつくし」から「かわいい」への系譜の中ではむしろ成熟Ⅱ完成は忌避される。そしてこれは言うまでもなく、《不完全》という「日本美」の基本的な三要素の一つへと直結している。

小さなもの、繊細なものが愛でられるのと同様に、いまだ完全に成熟を遂げていないもの、未来に開花の予感を持ちながらもまだ十分に咲きホコ^(ア)っていないものにこそ、価値が置かれるという事態が、日常生活のいたるところで見受けられるからだ。日本人とは、人に花を贈るのに蕾^{つぼみ}を好んで贈る民族であるとは、しばしばいわれるところである。(四方田犬彦^{注1})

『かわいい』論 一二二頁

花という万国共通であろう「美」を、しかし日本人はあえてまだ咲かぬ「蕾」において愛するという。ただ、^B「花は盛りに……のみ見るものかは」という兼好法師(『徒然草』百三十七段)のことは、咲く前だけでなく散りはじめてからも含まれよう。必ずしも未成熟ばかりでなく、盛りを過ぎたものにも「美」が見出されるが、いずれにせよ《不完全》という契機^{注2}が一つの価値として《積極的に受容》される。

「失敗をする女の子は、一分の隙も見せない女の子よりもかわいいと考えられている」と四方田は言う。これを自ら意識的に用いることは一種の「媚態」である。

「かわいい」についてまず否定的に論及したのは上野千鶴子^{注2}だった。それは、女性の生存戦略としてずっと採用されてきた

「媚態」であるというのだ。

ここでわれわれは思い出さずにはいられない。「媚態」こそ、九鬼周造が「いき」を構成する三要素のうち中心に置いたのであったことを。「いき」はもともと男に対して言われたことばだったが、のちには女にも使われるようになった。「かわいい」は女が男に対して見せるものだと言野は言うが、今では男も積極的にその価値を利用しようとしている。

その点で、「かわいい」は「日本美」の属性のうち、『不完全性』とその『積極的受容』をも満たしていると言える。

性差に関係なく見せる「媚態」という点で、「いき」と「かわいい」には共通項があると言えるが、それだけでなく、ただの「媚態」と異なるところがあることにおいても通じるものがある。

「媚態」が「コケトリー coquetterie」や「セクシー sexy」と重なりとすれば、その中心には性的関係の完成という目的があるだろうが、「いき」には「意気地」によって、「かわいい」には「未成熟」によってそれを拒否する側面があるからだ。

ただし、「意気地」は「かわいい」には無縁だろう。残る「諦め」も、少なくとも「いき」におけるそれとは異なるものだ。「いき」の「諦め」は関係が成立しないことに対してだったが、「かわいい」にもしなんらか「諦め」が伴うとすれば、それはいずれ成熟してしまうことに対してだからである。

いずれにせよ、ここには『不完全性の表現』とその『積極的受容』があると言えるが、「いき」があくまで「諦め」という『受容』に軸足を置いているとすれば、「かわいい」には『積極的』という要素の方が強い。諦めつつも受け入れる、というレベルでなく、「未熟」そのものを価値へと転じているからだ。

もう一つ、「いき」と「かわいい」とに共通するものがあるとしたら、それは両者ともに、対象のなかに見出すばかりでなく、積極的に自分自身が身につけようとする価値である、という点である。「かわいい」を愛する者は、たいてい「かわいい」ものたちで自分自身や自分の部屋をとり鑑かんう。

身の回りをそれで埋め尽くすことができるのは、「かわいい」ものがたいていは「小さきもの」だからであるが、そのなかに埋めれることで主体／対象間の懸隔もとりはられる。与謝野晶子や九鬼周造が桜に浸り感じたのとよく似た、自己の輪郭

が溶け出し、また美が周囲へと滲^しみわたるような感覚だ。「日本美」の属性の一つである、『主客未分』である。

^{注4}篠原資明は、「かわいい」の特性は彫刻より人形によく現れるとしている。それは、「人形は着せる欲望を受け入れるのに対して、彫刻はその欲望を拒む」からである。また、「人形は、着せられるものであるほかないというその根源的受動性によって、人間の衣服内存在の原点を映し出しもする」。

「衣服内存在」とは、人間が他の動物と異なり、衣服に身を包むことなく世界に直接晒^{さら}されるわけにはいかないという「根源的受動性」を帯びたもののことを言う。人形はその意味で、人間をより小さくより無力にかたどることによって、「根源的受動性」の自覚を強めさせる。彫刻は自立した対象だが、人形はたんなる鑑賞物ではなく、われわれの分身である。われわれもまたかつて「小ささ」と「幼さ」において着せられて守られることでしか存在を維持できない「根源的受動性」を抱えていたからである。

「かわいい」、「うつくし」はもともと幼い我が子に対してその未熟^(あ)さをいたわしく思うことから始まっていたが、その未熟さは当然かつての自分の姿でもあった。人形は「かわい」さによってそのことを思い起こさせる。そのとき「かわいい」は、対象の性質であり主体の感情であるばかりでなく、その対象が主体でもあるという未分の状態を現出させる。

「かーわーいーいー」と身をよじらせながら叫ぶ少女たちは、その対象がなんであれ、そこに「かわいい」を見出せる自分自身の感性とその発見に歓喜する自分自身の姿もまた「かわいい」ものであることを信じ、周囲の人間にもアピールしている。こうした「かわいい」は対象から主体を通じて周囲へと広がってゆくのだ。

「かわいい」を愛することは、「かわいい」に取り囲まれたい、ひいては自分が「かわい」くなりたいということと限りなく接近する。「誰かを「可愛い」と呼び、その「可愛さ」を信じることのできる者だけが、真に「可愛い」に到達できる存在である」し、Xと四方田も言う。

なにしろ四方田自身が、『かわいい』論の裏表紙にある著者近影に、プリクラによって瞳の中を星でキラキラに加工したものをを用いて「かわいい」を実践して見せているのだ。「かわいい」は感染する。

出版時に五十歳を優に超えていた四方田が「かわいい」を目指すのは無理があると思われるかもしれない。たしかに、「かわいい」の重要な契機であるところの「幼さ」は望むべくもない。

しかし、四方田によれば、「小ささ」や「幼さ」だけでは「かわいい」を十分に語ったことにはならない。「グロテスク」という要素を欠かすわけにはいけないのだ（四方田の著者近影がグロテスクだと言っているわけではない。ただ、四方田の論に従えば、この写真にも当然グロテスク要素が含まれていなければならず、当然そのことを意識した上でケイサイ^(イ)しているに違いない）。

この「グロテスク」を **Y** ところに四方田の卓見^(イ)が光る。「かわいい」のなかに「きもかわ」というサブジャンルがあるのではなく、「かわいい」は本質的に「きもかわ」だというのがのだ。

たしかに、子どもであれ、アニメのキャラクターであれ、「かわいい」ものは、そのまま拡大したり、三次元的現実呼び込んだりすればたちまちその「グロテスク」さを露わにするに違いない。西洋的な狭義の「美」が大きさや均整と結びついているとすれば、「かわいい」は小さく幼いがゆえに **II** に許されている不均衡のことである。

しかし「かわいい」が裡^{うち}に「グロテスク」を隠し持ちつつも、「グロテスク」とは異なり正の価値を帯びるのは、「かわいい」の未熟さがかつて自らのものでもあった以上、同情を呼ぶからである。

この点、四方田は「美は人をして畏敬と距離化へと導くが、グロテスクは同情を喚起する」と言い、「美」と「グロテスク」を対比させるが、「グロテスク」はそれだけでは忌避の対象だろうから、ここは「美」と「かわいい」とすべきである。

ただ、いずれにせよこの「同情」が先に挙げた《主客未分》の状態を生み出すことに一役買っていることは間違いない。たとえばわれわれが捨て猫を見て「かわいい」と思うとき、それは「猫がかわいそうで」「かわいい」なのではない。それを見つめる人間の眼差しがかわいそうで、すべてを「かわいい」の色調に染め上げてしまう力に満ちている」からである。

こうした属性を見てくると、「かわいい」がまぎれもなく「日本美」としての契機を十分に具えていることがわかるだろう。「未熟」という意味で《不完全》であり、それを「媚態」という武器として用いるという意味で **III** であり、対象

の中に見出すばかりでなく自分もまたそうあらうとする点で《主客未分》でもある。

^{注5} 李御寧は、日本文化の特徴を、縮ませることにより強めることに見たが、たしかに「かわいい」は小さくはかなげでありながら、強いところを持っている。「未熟」はいやでもいつか「成熟」に辿りついてしまはずだが、「かわいい」を求めるものたちはその自然の摂理を無視したかのように永遠の少女／少年でありつづけようとする。かつて「かわいい」は、大人になれば、自分にはもとより、対象の中にもあまり積極的に求めるべきではない価値であったのだが。ここには大人にならないことを許容する社会の変容が関係しているが、しかし、それは受容の程度の問題であり、本質的には日本は「かわいい」を古来認めつづけてきたと言えるだろう。

四方田は「かわいい」が世界を席捲している現状に関して、「かわいい」が日本から伝播したのか、それとも世界各地に潜在していた「かわいい」の芽を日本が芽^うづかせたのかについての結論を留保している。しかしここまで見てきたところによれば、少なくとも「かわいい」はやはり日本固有の美意識であったということができる。

これが「わび」や「幽玄」や「いき」とは違って、世界で広く速く広まったことに関しては、たしかに「かわいい」に類する美意識が各地に潜在していて、それが〈日本〉が契機になって発現したという見方もありうる。

しかし、伝播なのか、それとも潜在していたものの発現なのかという二者択一にこだわる必要はないだろう。「かわいい」と全く同じ美意識はよそに見当たらなかった。だから「かわいい」はその単語とともに広まりを見せている。しかし完全な伝播ならこれほど迅速には伝わらなかっただろう。近しい意識は潜在していたに違いない。

(伊藤氏貴『美の日本 「もののあはれ」から「かわいい」まで』による。)

注

- 1 四方田犬彦——日本の比較文学者（一九五三年～）。二〇〇六年に『かわいい』論』を著す。
- 2 上野千鶴子——日本の社会学者（一九四八年～）。二〇〇五年に著した『老いる準備——介護すること／されること』の中でこの問題に触れる。
- 3 九鬼周造——日本の哲学者（一八八八～一九四一年）。一九三〇年に『いき』の構造』を著す。そこで九鬼は、「いき」の構成要素を「媚態」「意気地」「諦め」であるとした。
- 4 篠原資明——日本の哲学者、美術評論家（一九五〇年～）。二〇一五年に著した『まず美にたずねよ 風雅モダンへ』の中でこの問題に触れる。
- 5 李御寧——韓国の文芸評論家（一九三四年～）。一九八二年に『縮み』志向の日本人』を著す。

問一 傍線部（ア）（ウ）のカタカナを漢字に改めた場合、それと同じ漢字を含む選択肢を次の各群の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号を答えなさい。

（ア）ホコって

- 1 コセンキヨウを渡る
- 2 コリツ無援の状態
- 3 コジ来歴を調べる
- 4 話をコチヨウしない
- 5 企業のコモン弁護士

（イ）ケイサイ

- 1 チームのサイハイを振る
- 2 最新機能をトウサイする
- 3 布を型通りにサイダンする
- 4 競技会をカイサイする
- 5 不良サイケンを処理する

（ウ）芽ブかせ

- 1 選手の士気をコスイする
- 2 努力がスイホウに帰す
- 3 鉄棒でケンスイをする
- 4 森鷗外にシンスイする
- 5 昨晩はジユクスイできた

問二 傍線部(あ)・(い)の語句の意味として最も適当なものを次の選択肢の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号を答えなさい。

(あ) いたわしく

- 1 仕方ないと
- 2 腹立たしく
- 3 助力しようと
- 4 かわいそうに
- 5 隠しておきたいと

(い) 卓見

- 1 優れた考え
- 2 甚だしい誤解
- 3 平凡な思考
- 4 論理的整合性
- 5 見事な表現力

問三 空欄

I

II

に入る語句として最も適当なものを次の選択肢の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号を答えなさい。なお、一つの語は一回しか用いてはならない。

- | | | | | | | | |
|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| 1 | 感覚的 | 2 | 可及的 | 3 | 普遍的 | 4 | 意図的 |
| 5 | 一時的 | 6 | 画一的 | 7 | 核心的 | 8 | 理論的 |

問四 空欄

Ⅲ

に入るものとして最も適当なものを次の選択肢の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- | | | |
|-------------|-------------|------------|
| 1 成熟の戦略的利用 | 2 消極性の積極的受容 | 3 美的畏敬の距離化 |
| 4 旧来的な性差の活用 | 5 圧倒的な受動の態度 | |

問五 傍線部 A 「日本美」の基本的な三要素の一つとあるが、「かわいい」が日本独自の感性であるかどうかについての筆者

の見解はどのようなものか。その説明として最も適当なものを次の選択肢の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 「かわいい」が日本独自のものかどうかについては現時点ではわからないが、さらに研究を深めていく必要がある
- 2 日本の「かわいい」と同一と言えないまでも、同類の美意識は外国にも存在したと考えるのが理にかなっている
- 3 オリジナリティという観点からすれば、「かわいい」よりもむしろ「いき」の方がより優位にあると考えられる
- 4 「かわいい」は日本固有の美意識であり、その独特な感性は世界で高く評価されるが、本質的には共有されない
- 5 「かわいい」という感性は日本人の心に常にあるわけではなく、かつその価値も社会的に認められてこなかった

問六 傍線部B「花は盛りに……のみ見るものかは」……ことばとあるが、筆者はどのような意図で古典の一部を引用したのか。その説明として最も適当なものを次の選択肢の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 有名な古典作品である『徒然草』にも独特の感性が表出されていることを示し、筆者の主張の正当性を強化するため
- 2 日本人が《不完全》で未熟なものに美を見出してきた事実には、それ相応の歴史的経緯があることを強調するため
- 3 花に美を見出す感性は万国共通だが、日本人のその嗜み方は長きにわたり他と異なっていたことを明示するため
- 4 日本の美の基本的要素《不完全》の範疇はんちゆうには、未成熟に加えかつて成熟していたものも含まれることを示すため
- 5 月について記述された「……」の部分をあえて省略し、盛りを過ぎた美の事例が他にもあることを印象づけるため

問七 本文一ページ後半から二ページまでの範囲で述べられた「媚態」「いき」「かわいい」についての記述のうち、説明として誤っているものを次の選択肢の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 「いき」と「かわいい」は、いずれも日本美の属性を備えた、性別を超えて使用される語であるが、そのような語となる歴史的経緯は異なっている
- 2 意図的に《不完全》であることは可能であり、それをなす者は「かわいい」存在であり、日本の美の感性になっ
ているとする考え方があ
- 3 「いき」における「意気地」が「かわいい」における「未成熟」に当たり、「かわいい」は「意気地」によって成熟を拒否していると言える
- 4 「かわいい」を女性が戦略的に用いる「媚態」として否定的に見ることもできるが、性差に関わらない「媚態」として、「いき」と通ずると見ること
- 5 「いき」と「かわいい」は《不完全性》を受容する「諦め」を共通項としているが、「かわいい」の方はそれを価値へと転換する積極性が強い

問八 傍線部C 主体／対象間の懸隔もとりはられるとあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを次の選択肢の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 「かわいい」を愛する者とその周囲の小さく「かわいい」ものとの境界が曖昧になり、一体の「かわいい」ものであるかのようになること
- 2 「かわいい」を愛するために「かわいい」ものを置いていたのが、「かわいい」ものを置くがゆえに「かわいい」を愛するのだと逆転すること
- 3 自分を「かわいい」存在にすることが本来の目的であるので、「かわいい」ものを対象とする愛情が徐々に自分への愛情に変化していくこと
- 4 「かわいい」ものはたいてい小さいものなので、「かわいい」を愛する者が「かわいい」もので身の回りを埋め尽くすことは容易であるということ
- 5 桜のなかに身を置いたときに感じるような、自分のいる場所が周囲から隔絶され、そこだけが美の境地であるような感覚にとらわれるということ

問九

空欄

X

Y

に入る表現として最も適当なものを次の選択肢の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号を答えなさい。

X

- 1 「かわいい」について読み、語る者が「かわいい」のだ
- 2 「彫刻」の莊重さに見切りをつけた者が「かわいい」のだ
- 3 「衣服内存在」であることを甘受する者が「かわいい」のだ
- 4 「かわいい」への愛は「かわいい」者に許された特権なのだ
- 5 幼かった頃の「根源的受動性」に自覺的な者こそ「かわいい」のだ

Y

- 1 単なる感覺与件から脱した
- 2 二項対立的な存在と規定した
- 3 十分条件だと看破した
- 4 小前提から大前提に轉換した
- 5 必要条件として加えた

問十 本文の内容と合致するものを、次の選択肢の中から二つを選び、その番号を答えなさい。

- 1 花を愛でる行為は万国共通であることから「かわいい」を受容する素地が諸外国に潜在していたことがわかる
- 2 「日本美」を論ずる観点からすると、「小ささ」や「幼さ」は《不完全》という要素を共に備えていると言える
- 3 「かわいい」を愛し積極的に身につけようとする者が、同時に「いき」であろうとすることは原理的に不可能である
- 4 人形は、幼い自分が超克した「根源的受動性」を思い起こさせる存在である点で、良質な鑑賞物となる
- 5 「かわいい」は成熟するという「諦め」を伴っているとも言えるが、「かわいい」を愛する者はこの成熟を拒む
- 6 《不完全性》を積極的に受容または演出し、「かわいい」を追求するような心性は、日本以外では観察できない

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。なお、設問の都合上、本文の段落に 1 ～ 23 の番号を付してある。また設問の都合上、一部省略した箇所がある。

1 慣れ親しんだ生活世界が大変化へと曝されるといふ経験自体は、私たちにとって、もはや普通のことである。

2 ここ数十年のことを考えてみても、高度経済成長から低成長へ、バブル経済からそのホウカイへ、^{注1}ネオリベリズムの展開と行き詰まりへ、というように、時代の趨勢は変化してきたし、私たちが生きている生活世界のあり方も、着実に新たなものへと変化してきた。大規模な画一的な団地の造成、都市空間の過度な新品化²消費化、投機化、セキュリティ完備の I 空間の出現、というように、現われる以前にはまったく予想できなかった空間形態が続々と新たに創出された。

3 その度に、私たちは不慣れな空間経験を強いられ、適応を迫られることになった。つまり、それまでに慣れ親しんだ生活形式とはかわりなしに断絶として現われるというのが、ここ数十年の空間の変化の経験だったということができよう。

4 私たちにとって、急な変化は当たり前のことである。それは、一方では進歩として、近代化として、成長として肯定され、他方では、伝統破壊、実生活からの遊離、理性なき合理化として批判されるというように、さまざまに価値評価されたとはいえ、そこでの変化は基本的には、新しいことが到来し、堆積していくとして経験されたことにはかわりはない。

5 ^Aそうしてみると、現在経験しつつある生活世界の変化は、特異であると思われる。新しいものの出現、新しいものの創造というより、これまでに使われていた空間が打ち捨てられ、荒廃し、朽ちていくことが優勢になりつつある。これが現在の変化の基調にあるのではないか。創造的な革新がもたらす変化というより荒廃による変化である。これまでに堆積してきた生活世界が、壊れ、荒廃していく、ということだ。私たちは、これにも適応しなくてはならないのか。

6 ^aこういった議論は、生活世界の変化とは、情報社会化と金融資本のグローバルな支配がすすむにつれて模様が世界を覆い尽くすことであり、日常生活が、リアルな世界に並行しているハイパーリアルな模像世界に圧倒され呑み込まれること

だ^(b)といった類の議論に慣れた人には奇異に思われるだろう。たとえば磯崎新はこう述べている。

ウェブが全世界にかぶさり情報社会とよばれ、現実の世界にもうひとつの虚像のような世界が重なっている。金融資本主義が圧倒的な力を持ち始める。都市は「計画」されるものではなく、「投機」の対象となった。あげくにジェイムソンがいう、「商売」、「商品」、「消費」、「^{注3}デイズニー化プロセス」がこの世界を覆う基本的な動向となったことに気付かされる。

7 対応すべき状況は、生活空間が **X** を剝奪され、均質的な平準化された空間へと均^{なら}されていくことである。こ

こで問題なのは、グローバル空間の **II** (いたるところを包摂した今、もはや外部は存在しない) であり、その均質性、虚構性(紛い物)であった。つまりリアルなもの、生々しいものから遊離した、均質的な生活空間が世界のいたるところに創出されていくことをどう考えたいのか、そこでどうしたいのか、ということである。

8 ^(c) こういった議論からすれば、生活世界が荒廃するという展望は、理解不能な事態といえるかもしれない。そこもいずれはグローバル資本の波へと呑み込まれることで復興し発展を遂げるだろうとなかば強引にみずからの理論体系内へと包摂し、説明しようとする人もいるかもしれない。

9 ^(d) それでも、こうした議論とは裏腹に、この荒廃というあまりに生々しく過酷な事態は、いずれ全人类的な課題になるだろう。均質化ではなくて荒廃こそが、これからの生活世界をつくりだしていく過程の基調にあることになるのではないかとすると、今われわれがときに目にする荒廃している光景は、けっして例外などではなく、今後の生活世界のあり方を预示するものということになるのではないか。

10 ^(e) こういった問題提起は、^{注4}マイク・デイヴィスの画期的な著作である『スラムの惑星』の主要テーマである。デイヴィスは、二〇五〇年にはおよそ一〇〇億人に達するとされる地球の総人口の大半が都市人口になるだろうという予測について、

Ⅲ

それがいったい何を意味するかを Ⅲ に思考することが必要であることを示唆する。都市人口の増加とは、地球における都市領域の拡大を意味するのだが、ここでいわれる拡大とは、いったいいかなる拡大であるか。

- 11 それは、工業化、経済成長を条件とする都市化であるか。さらびやかな建造物が新たに続々建造される都市成長の過程であるか。デヴィスによればそうではない。未来における都市化とは、スラム的なものとしきれないような領域の大規模な拡張である。

- 12 かつてスラムは、近代的な工業化にともなう都市への人口流入とともに形成された領域であった。製造業や建設業や炭坑などに従事する、工業化を推進していくためには不可欠の労働人口の集積地点であったが、老朽化住宅、人口過密、病気、貧困をその基本的特徴としており、それゆえに、社会のクズ、不道徳なならず者の住まうアブノーマルな領域とみなされてきた。つまりスラムは、大都市のなかの隠れた領域、「薄汚れた裏通りからなる地域」として成立していた。

- 13 ^Bだが現代のメガスラムは、かつてのスラムとは違う。その間には質的な断絶がある。

- 14 なによりもその成立の条件が違う。それは工業化を欠いた都市化、つまりは工業化から見放された、都市周辺での都市化である。農業の規制^(イ)カンワなどが要因となつて地方で仕事を失った人々と、地価高騰、工場閉鎖、失業などが要因となつて都市中心部には住むことのできなくなった人々が流入していく周辺部分（都―農村連続体）に建造された掘建て小屋がゾウシヨク⁽²⁾していく領域である。「過剰都市化」は、職^(エ)のキョウキユウではなくて貧困の再生産によつて推進されるのだ。

- 15 工業化を欠いていて、経済活動から見放された都市周辺が、これからの人類が住まう主要な生活領域になる。これがデヴィスの基本的な見通しである。

- 16 これは貧困がいまだに克服されていない第三世界に特有の現象であつて、貧困が克服され、豊かになった日本にとっては対岸の火事だと思えることができるかもしれない。

- 17 だが日本でも、見放され、荒廃していく領域自体は着実に増えている。工場が移転したあとに残された空き地、衰退し

つつある商店街、居住者の高齢化がすすむかつての新興住宅街などをその領域の例として考えることができるかもしれない。

18 こうした領域は閑散としており、そのかぎりでは、人口の爆発的な増大をその基本的な特色とするメガスラム化とは似ても似つかぬ状態にある。だが、空間のあり方に着目するなら、工業化を欠き、経済活動から見放されている状態にあるかぎりでは、基底には同様のパターンがあると考えることができないか。

19 今はまだ、かつて栄えた状況が解体されていくことにともない閑散としている状態が優勢であっても、現在まさに進行中の貧困化ゆえに産出された職もなければ住居も欠いた過剰人口が都市から一挙に押し寄せてくるかもしれない。日本の領土の大半もいずれは「スラムの惑星」の一部になると想像してもまったくの外的にはならないかもしれない。

20 いったい何が、どのようにして荒廃しているのかと問うてみると、何よりもまず、空間の問題ということを考えてみる必要があるのではないか。つまり生活世界の荒廃とは、私たちが生きている空間が荒廃の過程へと巻き込まれつつあることの問題である。

21 こうやって空間のあり方に着目しつつ生活世界のあり方についての考察をすすめていくというのは、従来型の社会理論の流れからすればダイタ^(オ)な転換である。というのも、デヴィッド・ハーヴェイが『ポストモダンティの条件』で述べているように、マルクスやウエバーといった理論家が問題にしたのは社会の変化、Yであったからである。そこで空間は、社会の変化と独立の、変わることにない不変の枠とみなされていた。

22 それゆえにアンリ・ルフェーブルの『空間の生産』は重要である。生活世界のあり方を、さまざまな活動が繰り広げられることとかかわりにおいてつくられるものとしての空間という観点から把握し、それがどのようなものになっているのか、何が問題であるのかを問い詰めていく理論の素材を提示したからだ。

23 彼がいう空間は、人間活動とのかかわりにおいて生産される、動的な空間である。つまり不変の枠ではなく、それ自体、変化していく。「身体が、そのエネルギーを発散しながら空間を生産するというだけでなく、みずからの行為とともに、

空間の法則に従ってみずからを生産していく」。このように生産される空間はどのような状態にあるのか。ここに着目することで、私たちは、自身が生きる生活世界のあり方を、社会的諸関係、道徳、生産様式、言語、交換といった観点とは違うやりかたで捉えることができるようになるだろう。それは生活世界を、空間という観点から、空間論的な思考によって把握しようとするものである。

（篠原雅武『空間のために 遍在化するスラム的世界のなかで』による。）

注

- 1 ネオリベラリズム——新自由主義。小さな政府や民営化、市場原理主義の重視を特徴とする経済思想。
- 2 磯崎新——日本の建築家（一九三一年〜）。
- 3 デイズニー化プロセス——デイズニーランドにおいて消費社会に適応するために用いられる諸原理が、世界の様々な分野に波及しているプロセスのこと。
- 4 マイク・デイヴィス——アメリカの都市社会学者（一九四六年〜）。
- 5 デヴィッド・ハーヴェイ——イギリスの地理学者（一九三五年〜）。
- 6 アンリ・ルフェーブル——フランスの哲学者（一九〇一〜一九九一年）。

問一 傍線部（ア）（オ）のカタカナを漢字に改めた場合、それと同じ漢字を含む選択肢を次の各群の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号を答えなさい。

（ア）ホウカイ

- 1 ホウガの新作を鑑賞する
- 2 民衆が各地でホウキする
- 3 国王がホウギヨする
- 4 人口がホウワ状態だ
- 5 国の発展にホウシする

（イ）カンワ

- 1 トツカン工事で進める
- 2 財務省がカンカツする
- 3 カンマンな動作をする
- 4 カンヨウな態度をとる
- 5 事情をカンアンする

（ウ）ゾウシヨク

- 1 ショクタク職員として働く
- 2 外部とのセツシヨクを断つ
- 3 臓器をイシヨクする
- 4 ソウシヨクを施す
- 5 魚をヨウシヨクする

(エ) キョウキユウ

1 恩恵をキョウジユする

2 店頭でシキョウ品を配る

3 新幹線でジョウキョウする

4 キョウヨウを身につける

5 キョウキンを開いて話す

(オ) ダイタン

1 タンテキに意見を述べる

2 思わずタンソクを漏らす

3 ヘイタンな道のり

4 タンリヨクのある人物

5 タンネンに作業する

問二 空欄

I

III

を答えなさい。

に入る語として最も適当なものを次の選択肢の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号

I 1 便宜的

2 排除的

3 統合的

4 外来的

5 包括的

II 1 観念性

2 伸縮性

3 突発性

4 閉鎖性

5 恒常性

III 1 個人的

2 合理的

3 肯定的

4 断片的

5 徹底的

問三 空欄

X

Y

号を答えなさい。

に入る言葉として最も適当なものを次の選択肢の中からそれぞれ一つずつ選び、その番

X

1 抽象的多様性

2 芸術的創造性

3 地理的独自性

4 文化的特殊性

5 絶対的普遍性

Y

1 空間の存在を無視した旧態依然とした理念

2 進歩や近代化や革命といった時間軸上の変化

3 種々の社会空間を変革していくための新理論

4 社会主義が原理的に抱えている様々な問題点

5 刻々と変わりゆく現実と自身の理論の整合性

問四 傍線部 A 現在経験しつつある生活世界の変化は、特異である とあるが、どのような点において筆者は「特異である」と言っているのか。その説明として最も適当なものを次の選択肢の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 近代化にともなって生活が新たな形式に改変されるのではなく、荒廃した土地の拡大により生活空間が縮小していくという変化をたどっている点
- 2 既存のものの守旧性を打破する新しいものが選択的に受け入れられるという従来の形をとらず、既存の生活文化が否応なく破壊され廃れるという変化が見られる点
- 3 新しい空間形態の創出により既存の生活文化が更新されるという変化ではなく、人々が基盤とする生活空間そのものが壊れていくという変化をしている点
- 4 時代の潮流に乗って生活が突発的に新たな形式へと移行するのではなく、人々が慣れない環境に適応できずに退廃的な生活を強いられるという変化をしている点
- 5 生活のなかに新しいものが流入し積み重なっていくなかで生じる変化ではなく、培われた伝統文化が近代化の波にあおられ衰退するという変化が見られる点

問五 傍線部 (a) から (d) の「議論」のうち、傍線部 (e) の「こういった問題提起」と同じ内容のものを一つ選択し、その番号を答えなさい。

- 1 (a)
- 2 (b)
- 3 (c)
- 4 (d)

問六 傍線部B 現代のメガスラムは、かつてのスラムとは違うとあるが、どのような点で違うのか。その説明として最も適当なものを次の選択肢の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 都市内部に莫大^{ばんだい}な労働人口が結集して経済活動を推進しているのではなく、都市部の工業化の犠牲となった困窮者が流出して都市周辺の活性化を妨げている点
- 2 工業化を背景に労働を目的とした人々が都市内部に集中しているのではなく、困窮を原因として経済から見放された都市周辺に人口が集中している点
- 3 経済の発展にともなう都市部に労働人口が集中するのとは反対に、都市部の貧困層が職を求めて都市周辺へと進出することで経済成長を支えている点
- 4 都市成長による人口増加とともに拡大する経済格差を象徴した領域ではなく、都市周辺の田園化を契機に中間層を中心として成立した領域である点
- 5 近代化の進行とともに拡大するさらびやかな生活領域ではなく、工業化を欠いた都市周辺部への過剰な人口流入によって貧困層が生じる荒^{すさ}んだ領域である点

問七 傍線部C 違うやりかたで捉える とはどのようにすることか。その説明として最も適当なものを次の選択肢の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 社会的諸関係や生産様式といった不変の枠組みを通して生活空間を把握するのではなく、人間活動とともに変化する動的な空間に着目して捉えること
- 2 生活空間が人間の活動とかわりなく定まった形で存在すると認識するのではなく、人間活動とともに動くものとして時間軸上の変化に着目しながら把握すること
- 3 生活空間を社会の潮流から独立した枠組みであるとみなすのではなく、社会の動きと軌を一にしながらその都度変化していくものであると捉えること
- 4 空間を不変の枠組みと捉えてその内部の事象から生活世界を把握するのではなく、空間自体が人間活動との相互作用により変化するという考えを基軸にして把握すること
- 5 社会的諸関係や生産様式に注目して生活世界を捉える従来型の思考にとどまらず、社会の変化から独立して生産される空間そのものに着目すること

問八 本文の構成、表現などに関する説明に合致しないものを次の選択肢の中から二つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 第 1 ～第 5 段落では、過去から現代にかけての生活世界の変化を概観し、時代ごとに異なる変化について特徴を挙げながら述べている。現代人が経験している変化の特殊性に注目して、その事態に適応することへの難しさや疑問を投げかける導入としての機能を果たしている
- 2 第 6 ～第 9 段落では、生活世界の変化を情報社会と金融資本主義の視点から捉えた議論を紹介している。現実から遊離した均質的な空間に着目し、新たな側面から生活空間の荒廃という事態を捉えることで具体的な解決策を模索している。様々な議論を用いることによって、空間のはらむ問題を多面的に捉えることに成功している
- 3 第 10 ～第 15 段落では、マイク・デイヴィスの著作を紹介しながら、都市領域の拡大について論じている。かつてスラムとされていた領域と現代の領域との間に存する相違点から、人類の生活領域に生じる変化を予想している。反語的表現を用いることで、都市の拡大という表現から想像される華やかさと相反する現実を強調している
- 4 第 16 ～第 19 段落では、メガスラムの現象が日本の荒廃領域にもあてはまることを仮説的に述べている。メガスラムが人口の爆発的増加という背景を持ちつつも、経済活動からは見放されているという状況を説明することで、日本の荒廃領域にまつわる状況との相違点を可視化し、将来日本に生じるであろう都市化について指摘している
- 5 第 20 ～第 23 段落では、生活世界の荒廃という問題に対して、空間という観点から向き合うことの重要性を述べている。従来の社会理論が体系立てた空間論がある程度評価しつつ、アンリ・ルフェーブの著作について、生産される空間という画期的な捉え方を提示しているとして、空間論的な思考の有用性を述べている
- 6 全体として筆者は、生活世界の変化を空間の荒廃という問題に焦点を当てることで、今後の生活世界のあり方を考察している。世界的規模から都市レベルに至る、あらゆる範囲の空間を想定しながらも、他の書物からの引用や具体例を挙げることで、それぞれの空間の特徴を捉えやすくしている点に工夫がみられる

国語解答用紙 3日 []

一

問一	(ア)	①	②	③	●	⑤
	(イ)	①	●	③	④	⑤
	(ウ)	●	②	③	④	⑤

問二	(あ)	①	②	③	●	⑤
	(い)	●	②	③	④	⑤

問三	I	①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧
	II	①	②	③	④	●	⑥	⑦	⑧
	問四	①	●	③	④	⑤			

問五	①	●	③	④	⑤	
	問六	①	②	③	●	⑤
	問七	①	②	●	④	⑤

問八	●	②	③	④	⑤	
	問九	●	②	③	④	⑤
	Y	①	②	③	④	●

問十	①	●	③	④	●	⑥
----	---	---	---	---	---	---

二

問一	(ア)	①	②	●	④	⑤
	(イ)	①	②	●	④	⑤
	(ウ)	①	②	③	④	●
	(エ)	①	●	③	④	⑤
	(オ)	①	②	③	●	⑤

問二	I	①	●	③	④	⑤
	II	①	②	③	●	⑤
	III	①	②	③	④	●

問三	X	①	②	③	●	⑤
	Y	①	●	③	④	⑤

問四	①	②	●	④	⑤
	問五	●	②	③	④

問六	①	●	③	④	⑤	
	問七	①	②	③	●	⑤

問八	①	●	③	④	●	⑥
----	---	---	---	---	---	---

50点

50点